金森赤レンガ倉庫群　第199号

◇巻頭言◇

就職戦線

総公務　信田利之（昭和33年卒）

教育改革の大きなうねりの中でキャンパス再編が行われ、函館校は平成十八年三月を持って教員養成課程を廃止し人間地域科学課程として生まれ変わった。その第一期生が来春卒業を迎える。

北海道労働局が十月に発表した有効求人倍率は、〇・三八倍で函館校への民間企業からの募集も半減し厳しい状況である。このような現況を打開するために就職支援センターでは、長谷昭センター長（教授）を中心に、企業・公務員担当副センター長に金光教授・同教員担当に三浦准教授を、民間企業・官庁（公務員）の企画運営を佐藤弘明キャリア・オーガナイザーが担当している。民間企業・官庁（公務員）の学生指導は岩船寛が担当、教員は札内征男・信田利之が担当し、それぞれの領域・分野での相談・指導を行っている。担当者は毎週金曜日に企業・公務員・教員の三コースに別れて職能向上を目指して進路開発の授業を実施している。

本年度の民間企業就職動向については、二〇一〇年春の大卒採用計画は〇九年春の実績に比べて一九・六％も減少の見通しで、これまで積極的に採用してきたIT企業・金融・自動車・電機など幅広い業種で新規採用を手控える傾向が強い。このような状況であるが、学生は積極的に会社訪問や企業説明会・インターシップ等に参加し社会の現状を学び、また担当者の豊富な経験と人脈をフルに生かした相談活動が功を奏し、読売新聞東京本社・JTB北海道・日本生命・各金融機関・看護師・病院事務など優良企業に内定している。中小企業についても年度内（十二月）に終了の予定である。

総公務員は警察などの一部の職種を除いて全国的な削減傾向にあったが、世界不況の煽りを受けて、今年度は五年振りに公務員志望者が増加傾向を示し厳しさを増している。函館校では大手専門学校と提携し学生のレベルアップを図っている。学習内容が政治経済・法律・福祉等々多岐にわたるため強い意志と学習能力が求められる。情報力を生かした担当者の適切なアドバイスで難関と言われる函館市役所・苫小牧市役所・大学事務職・警察官・自衛官などに内定している。最終結果の集約には、もう少し時間を要する。

教員は受検校種と受検地によって倍率と難易度が異なる。東京・神奈川などの関東圏、大阪・奈良などの関西圏は倍率が低く狙い目である。しかし、倍率が低いからといってレベルが低いと言うことではない。むしろ求める教員の資質能力は高く、知識のみならず指導者としての人間性が重視される。一方、東北・北海道・四国・九州は学校の統廃合や少子化等で採用数が少なく厳しいが努力次第で道は広がる。担当者としては、教員の養成機能をフルに活かし教員の灯を消さないように最大限の努力をしている。現役は授業で、既卒者には論文・面接等の指導を直前特別講座で函館・檜山・胆振・後志などのブロックに分けて巡回指導を実施している。その成果として、本年度の現役登録者は、北海道・札幌市二十名、本州方面二十四名、計四十四名、既卒者北海道・札幌市八十一名（本州方面未報告）。総計百二十五名が教員として登録された。

益々厳しくなる就職状況は、母校の存続に関わる大問題であり、出口教育は喫緊の重要課題である。課題は山積しているが、夕陽の皆様の温かいご助言を励みに同窓の一人として学生の夢を叶えるように微力を尽しているところである。

全国支部幹事長会議

～「創造し、行動する夕陽会」のさらなる発展のために～

今年度の全国支部幹事長会議は、八月八日（土）、午後二時三十分より札幌市にあるホテルＫＫＲ札幌を会場に、本部役員十名、二十三支部の幹事長の出席の下、開催された。会議のはじめに出席者全員で夕陽讃歌を高らかに斉唱し、橋田会長の挨拶で始まった。

冒頭の会長挨拶では、就任二年目に当たっての抱負を述べるとともに、地元函館以外の地での開催の意義と本会議開催の目的を確認した。また、開催地である田中隆札幌支部長の歓迎の挨拶をいただき議事に入った。

議事に入っては、尾畠悌介、中瀬裕義両議長の進行により、議事の一番目の報告事項として、会長より北海道教育大学と函館校の現状及び今後の本部、支部組織の在り方について説明があった。次に、土谷敬幹事長から本部総会を受け、事業計画や夕陽会創立九十周年事業等の報告があった。

協議事項では、各支部の運営や活動の活性化を図るための取組について、①「民間企業等の会員の総会、懇親会への参加状況、民間等の会員把握の状況」、②「研修会、学習会、講演会等の開催による活動の活性と若い世代の参加促進」、③「支部会報等の発行や広報内容の工夫による同窓意識の高揚」、④「地理的条件の克服と研修・懇親会の開催」の四つの視点に絞った各支部間の情報交流があった。各支部からは、活動の工夫として民間企業等の会員への働きかけや研修を基盤とした組織づくりの強化、支部会報の発行、若手会員や女性会員への役割分担による同窓意識の高揚など、各支部の実態に応じた様々な工夫が紹介され、確実に工夫が実りつつあることを感じた。また、教職員以外の会員の組織化、会費納入率の向上のための方策などについて議論された。本部としても研究補助や期限付き採用教員の研修会の資料提供など各支部の取組を積極的に支援することが確認された。

続いて、本部各専門部から取組状況の報告や連絡が行われた。庶務部からは、次年度の本部総会が平成二十二年六月十九日（土）に函館市で開催されること、財政部からは、会費収入の減少化の説明の後、一層の納入努力をいただきたい旨の依頼があった。

最後に、中瀬副会長からの出席の御礼と同窓会の意義、今後の厳しい時代における夕陽会の発展のため、組織一丸となって取り組むことを願う言葉をもって閉会した。

受賞（章）おめでとうございます

✻函館市文化賞

中島　眞之　氏　昭和39年卒
函館市東山2の22の5

✻道教育功績者表彰

長谷　恵　氏　昭和47年卒
函館市山の手3の4の2

今村　裕昭　氏　昭和47年卒
登別市中央町6の19の1

✻藍綬褒章

久保　照子　氏　昭和28年卒
木古内町泉沢326の3

✻瑞宝双光章

関坂　昭夫　氏　昭和2近年卒
伊達市末永町125の30

✻函館市文化団体協議会青麒章

畠山　慶一　氏　昭和19年卒
函館市柏木町16の41

✻全国学校体育研究功労者表彰

鳴海　順二　氏　昭和48年卒
函館市北美原2の7の15

◆お詫びと訂正

前号でお知らせいたしました中で、誤りがありましたので、お詫びして、訂正いたします。

✻瑞宝中綬章

尾形　崎崎　猛　氏　昭和24年卒
函館市富岡町2の43の3

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはｗｅｂ委員会により、刷新されてから４年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページの主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/

情宣部ｗｅｂ委員会委員長　熊　谷　光　洋（昭和50年卒）

会務報告

幹事長　土谷　敬（昭和54年卒）

《一般会務》

7・25　檜山地区教採対策講座（過年度卒対象）を開催する。（乙部～26）

8・1　函館地区教採対策講座（過年度卒対象）を開催する。（函館～2）

8・8　後志地区教採対策講座（過年度卒対象）を開催する。（倶知安～9）

8　全国支部幹事長会議を開催する。（札幌）

15　胆振地区教採対策講座（過年度卒対象）を開催する。（室蘭～16）

9・8　第1回本部役員会を開催する。

12　文化部企画事業として小・中学生を対象とした夕陽記念館写生会を開催する。（函館）

26　五校同窓会長・理事長会議を夕陽会主管で開催する。（函館）

10・8　夕陽記念館写生絵画展がテーオー小笠原デパートで開催される。（函館～12）

12　夕陽記念館写生作品展の表彰式がテーオー小笠原デパートで行われる。

24　第9回夕陽美術展実行委員会が開催される。

11・18　函館校地域連携センターと橋田会長、土谷幹事長が懇談する。（函館）

12・1　杉浦副学長と橋田会長、土谷幹事長が懇談する。（函館）

12・18　第2回本部役員会を開催する。

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

7・1　松前支会総会・懇親会に橋田会長が出席する。（松前）

3　七飯支会総会・懇親会に橋田会長が出席する。（七飯）

10　福島支会総会・懇親会に花田副幹事長が出席する。（福島）

11　首都圏支部設立総会・懇親会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（東京）

15　指導主事等会総会、懇親会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（札幌）

16　「書五人展」（齋藤篤昭和43年卒他）が函館市芸術ホールギャラリーで開催される。（函館）

17　渡島支部支会長・幹事長会議に橋田会長が出席する。（函館）

8・8　昭和49年卒数学科同期会が開催される。（函館）

15　昭和39年卒同期会が開催される。（函館）

22　鶴陵会渡島支部総会に橋田会長が出席する。（函館）

9・6　昭和38年Ⅱ類卒同期会が開催される。（函館）

17　昭和30年Ⅰ類卒同期会が開催される。（函館）

18　（平出陽子道議道政報告会に橋田会長が出席する。（函館）

19　高等学校支部総会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（函館）

24　昭和30年Ⅱ類卒同期会が開催される。（函館）

29　昭和29年卒同期会が開催される。（函館）

10・3　夕陽指導主事等会懇親会に橋田会長、土谷幹事長が出席する。（札幌）

10・6　昭和34年卒同期会が開催される。（函館）

7　ののの平出陽子北海道議会副議長就任祝賀会に橋田会長が出席する。（札幌）

14　昭和35年卒同期会が開催される。（函館）

17　養護教諭特別科同窓会が開催される。（函館）

17　道央ブロック会議に橋田会長が出席する。（札幌）

23　夕陽会函館校会員懇談会に橋田会長、土谷幹事長、奥崎副幹事長が出席する。（函館）

24　留萌支部総会・懇親会に花田副幹事長が出席する。（留萌）

11・5　「写真二人展」（昭和50年卒黒田信彦、昭和48年卒島津彰）が喫茶ギャラリー亜ろで開催される。（函館）

7・7　北師函館渡島支部懇親会に橋田会長が出席する。（函館）

14　昭和37年Ⅱ類卒同期会が開催される。（函館）

20　六稜会渡島函館支部懇親会に橋田会長が出席する。（函館）

21　道東ブロック会議に橋田会長が出席する。（釧路）

12・2　「江戸の粋　千社札展」（酒井義雄昭和32Ⅱ類卒）が五稜郭タワー2階ホールで開催される。（函館）

4・4　札幌支部懇談会に土谷幹事長が出席する。（札幌）

16　道教育功績者お祝いの会に橋田会長が出席する。（札幌）

寄贈図書の紹介

「米寿の薔薇」及川悌三郎句集

及川悌三郎 著（昭和16年卒）

本書（史青社発行）は、及川氏自らが如月句会を結成し、昭和六十一年から平成二十年まで詠み続けてきた俳句を句集としてまとめたものである。

この句集の発行を通して平成二十年には、岩手県の芸術選奨を受賞している。

氏の俳句は、これまで歩んできた人生の道程をあるときは自然界にあるときは風景に、そして身近な人々に映し出した珠玉の句集である。

「命からがら」

北野　悦朗 著（昭和30年卒）

本書は、北野氏自らが出版したもので、氏が誕生した大正十二年から近年までの我が国を取り巻く世界の重大な出来事や国内情勢、そして、戦争を通しての何人も経験しがたい自身の経験をつぶさに記録した自分史かつ歴史年表の価値を持つ書籍である。

イラストや図表を所々にちりばめ、簡潔な文章を一層引き立たせる工夫も見られる。

（昭和54年卒　幹事長　土谷　敬　記）

第一回　北海道教育大学『北方教育資料館（夕陽記念館）』写生絵画展を終えて

文化部長　中村吉秀
（昭和54年卒　函館市立亀尾小中学校長）

函館の未来を担う子どもたちに、「人間地域科学課程」を中心とした新生函館校を今まで以上に身近な大学として受け止めていただき、函館や道南の新たな文化、教育発展に寄与するための取組の工夫が私たちの課題だととらえています。そこで、一般市民への広がりも視野に入れ、歴史的建造物である北方教育資料館（夕陽記念館）を対象とした第一回写生絵画展を実施いたしました。

北方教育資料館（夕陽記念館）は、大正三年に建てられた旧函館師範学校の校舎の一部で、平成二十年にリニューアルされ保存されてきました。平成元年に「函館の歴史的風土を守る会」から歴風文化賞を受け、平成十二年には文化庁から登録有形文化財にも指定されております。

そして十月八日（木）から十二日（月）まで、テーオーデパート六階を会場に作品展も開催され、三百人程の来場者をお迎えしました。どの作品も、資料館から受けた感動を心底に据え、丁寧に描ききっていました。さらに、特別賞となった作品は、若い感性で歴史的な積み上げを認識しつつ重厚に仕上げておりました。

ここで受賞者と作品を紹介します。

「北海道教育大学夕陽会長賞」
八幡小学校四年　笠島　彩那

「北海道教育大学函館校　地域連携センター長賞」
附属函館中学校二年　下野　里奈

「金　賞」
万年橋小学校三年　山田侑琳子

「銀　賞」
昭和小学校五年　金谷　陽花
昭和小学校五年　野中　栞里
附属函館小学校二年　平原　千聖
附属函館中学校二年　沢中　遥香

「佳　作」
八幡小学校四年　田中　歩美
万年橋小学校五年　荒井　智輝
附属函館小学校一年　寺井　翔
附属函館小学校三年　田中　大貴
附属函館小学校四年　寺井　咲
赤川中学校一年　川瀬　葵
赤川中学校二年　木村　麻衣
附属函館中学校二年　小林　楓
赤川中学校一年　木道　遊伽

このような夕陽会員の想いを紡ぐ表現に対して感謝し、児童生徒の新生函館校に対する共有感が少しでも強まることを願うところです。次年度も、より多くの参加者を募り、地域の造形文化につながる視点を大切にし、実施していきたいと考えております。

第一回写生絵画展を、無事成功裏に終えることができ、実行委員会の皆様とそれを支える諸先輩、そして何かとお世話いただいた橋田会長をはじめ、夕陽会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

師範教育と特別支援教育の支援者
林儀作と函師・函聾

特別支援学校支部長　島　津　彰
（昭和48年卒　函館聾学校長）

大正時代末から昭和初期に函館師範学校と函館聾学校の支援に力を尽くした、林　儀作（函館で新聞記者から代議士として活躍）の足跡を紹介する。

一、林　儀作の生涯

林は明治十六年に佐渡で生まれ、相川鉱山学校で学ぶ。同郷・同年齢には、「日本改造法案大綱」を著し、戦前の軍部台頭の精神的な支柱であった、思想家・北一輝（二・二六事件で死刑）がおり、北とは佐渡時代に恋愛論を交わし、私淑した幸徳秋水の平民新聞に論評を書くなど（「北一輝論」：松本健一著）、彼の文筆能力の高さを如実に示している。

佐渡新聞に在社していた時に、函館で新聞の主筆であった同郷の長谷川世民の誘いで、来函（二十四歳）する。世民は長男（海太郎・「丹下左膳」の著者〈直筆原稿・函館文学館蔵〉）のペンネームを筆が際だっていた林を忘れるなの意味で『林不忘』と命名との説もある。（二男・画家潾二郎の絵・函館美術館に収蔵）

林は濁川（出身地の町名）のペンネームで執筆を振るう。函館の北海新聞が大逆事件に関連した不敬罪で廃刊された時に、林が再起のために初号の祝詞等をまとめたものが函館中央図書館（北海日報初号材料蒐集帖）に保存されている。

その後、大正十三年から昭和七年までの二期にわたって北海道会議員（政友党）。その後、昭和七年の第十八回総選挙（衆議院）に政友党から出馬し初当選。政治家としてこれからという、任期半ばの昭和十年（五十二歳）に狭心症で終命。北一輝は二年後の五十四歳である。

二、函師卒業生「侮辱事件」と林

林が道議であった大正十五年に空知選出の山田勢太郎道議（当時の栗沢村村長経験）が議会で『函館師範学校卒業者は思想品位が札幌師範学校卒業者より劣るということを聞くが如何に。』と質問。これに対して道庁の池田参与員は『甲乙はない。向上修養はあくまで継続しなければならぬことは当然である。一つの段階を終わったというに過ぎない。』と答弁。

これに対して林は、翌日の十一月二十六日の質問の中で『昨日質問のあった函館師範卒業生の素質についての学務部長の答弁はきわめてお座なりである。明快な答弁を得たい。』と質問。これに対して池田参与員は『決して函館師範の卒業生の素質が悪いとは言い得ない。左様な風説があれば十分調べて善後の処置を執りたい。』と改めて答弁。

三、函館師範卒業生の「自治の剣」

一方函館師範学校の同窓会は、名誉を傷つけられたとして山田道議に対して悲憤慷慨し一斉に反発。代表を札幌に送り、直接面会を求め謝罪を要求。これに対して山田道議は和歌山師範学校の卒業生で二宮尊徳を信奉し（山田勢太郎翁伝：高井幸次郎著）、教育について理解をもっていただけに誤解を謝罪。（函館毎日新聞〈大正十五年十二月一日〉の記事の中に『失言問題から：函師同窓生憤慨』とある）。

林の行動は函館市民の一票につながるという打算のものでなく、生来の正義感に裏付けされたものである。また一方函師同窓生の行動は寮歌の一節（『自治の剣』）に歌われているような正義感だけでなく、当時の二十歳代の同窓生のもっていた愛校心を彷彿とさせるものであり、いずれも現代の政治家と若者に足りないエネルギーを感ずるものである。

四、「函館聾学校の窮状」と林

明治二十八年に開校した函館聾学校は当時は函館盲唖学校と称し、公立学校として認可が受けられず、（盲聾教育の義務化は大正十三年の「盲学校及聾唖学校令」によるが、抜け道として『当面は私学で可とある』）財政的に厳しい時代が続いていた。

林は第八期道会（大正十三年）にて『盲・聾・唖教育についていかなる考えをもっているか』と質問。これに対して道庁の得能内務部長は『盲・聾・唖者の教育については、これを造るべしとの義務を命ぜられているのであるが、なに分たびたび申すように地方費財政が許さない。目下私立に対して補助している』と答弁。

さらに林は大正十五年にも再質問で『盲唖教育に対して当局は親切を欠く傾きがあるやに聞くが如何か』と食い下がる。これに対して池田学務部長は『盲唖教育に対しては十分留意している』と答弁。

五、盲・聾教育義務化への遠き道

議会答弁にあるように「財政難」を理由に公立として設置されず、昭和二十三年の「盲学校及び聾学校の就学義務及び設置義務に関する政令」が出てやっと公立学校になるまでは、補助金のみの対応であった。ちなみに明治三十一年開校の長崎県盲唖学校は、大正十三年に公立へと一早く移管している。全国で三番目に開校した函館聾学校は、公立になるのまでには、実に五十三年間の年月を必要とした。

林は盲唖学校について昭和二年まで五回議席に立ち（小樽・寿原重太郎も同様）質問したことは、少数者への暖かい視点をもっていたことを示すものである。

六、林と特別支援教育

平成十九年に特別支援教育が本格的にスタートし、発達障がいの子ども達に代表される、何らかの支援を必要としている子ども達に視点が当てられるようになった事は教育の重要な転換である。

しかし考えるに、今まで存在してない子どもたちでなく、我々の目に映っても「心に見えない存在」であったことに気が付くのである。林は、道議以前の大正四年から函館盲聾教育後援会の役員をしており、「見える人」であった。教育は制度で完成せず、制度を生かすのは、やはり林のような情熱や正義感のある「人・教師」であると考えると、林の名前を将に『不忘』であると思う昨今である。

活・躍・す・る・同・窓 ～首都圏支部から～

全国小学校理科教育研究大会東京大会が、十月三十日に東京の小学校十校を会場に開催されました。

今回、夕陽の同窓が、この大会会場校の一校であります渋谷区立常磐松小学校で大変活躍されておりましたので、紹介いたします。

夕陽会の関係では、首都圏支部の会員の松澤映見先生が、二年生の授業者として授業を公開されました。

また、授業分科会では、低学年の部会で、首都圏支部の支部長であります渋谷区鳩森小学校の高橋妃彩子校長先生が司会者を、首都圏支部の幹事長の大田区立矢口東小学校の相川哲也校長先生が助言者をされました。

東京の大きな大会で、一つの授業に関わって、授業者、司会者、助言者ということは、なかなかないことだと、思っております。そのような、夕陽会の会員が力を発揮している場所に、一緒に参加することができたことに、大変感激しております。

（情宣部長　伊勢　昭　記　昭49卒）

全国小学校理科研究大会を終えて

松澤映美（平成6年卒）渋谷区立常磐松小学校

（平成二十一年十月三十日、全国小学校理科研究大会東京大会が行われ、中央ブロック発表校の本校では、理科・生活科の研究について発表しました。

低学年では、研究主題を「自然とのかかわりに関心をもって学習し、自然のすばらしさや生命の尊さに気付くことのできる子どもを育てる指導の工夫」としました。これは、新学習指導要領の生活科の目標をもとに子供の実態をふまえ設定したものです。

研究の重点は、第一に問題解決の充実、第二に言語活動の充実、第三に理科・生活科支援員との連携、第四に幼稚園・保育園との連携の四つとしました。

そして、二年生では単元「ひかりとかげであそぼう」を設定しました。この単元を通して、子供たちが充分に光や影で遊ぶ中で、体全体を使ってそのおもしろさや不思議さを感じ、遊びを通して光や影についていろいろな気付きをするという体験をしっかりとしてほしいと考えて設定しました。三年生になり、光源と物による影の状態について考えるときに、二年生での活動を思い出して活用できると考えたからです。

さて、大会当日の子供たちは、思い思いの材料を手に、いろいろな工夫をしながら影をうつす活動に活発に取り組みました。そして、ワークシートをもとに、影遊びをして発見したことについて、多くの子どもが発表したりハンドサインで自分の意志を伝えたりしました。

まだ単元の途中の段階ですが、四月から研究に取り組んでからの成果としては、一つ目に、子供たち全員が活動での気付きをすぐにワークシートに書けるようになったこと、またすべての子供たちが発言するようになったことです。二つ目に、活動の中で、時間いっぱいを使って何度も繰り返したり工夫したりして試す姿が見られるようになってきたことです。

これらの成果を四つの研究の重点に重ねると、第一には、育てたい問題解決の力を明確にし、系統的に整理して単元を設定したことにより、確実に子どもの力を伸ばすことができたことです。第二には、動作を交えての伝え合いの工夫などにより、気付きの共有化をより確かなものにすることができ、効果的な学び合い学習が行われたことです。第三には、支援員がいることで安全にかつダイナミックに活動でき、さらに必要な声かけを適切にできたことにより、子どもたちの意欲が高まり、一人一人が思いや願いをもって活動することができたことです。第四に、近隣の保育園への参観や連絡会などをもち入門期の子どもたちの実態を的確に把握して内容を設定したことにより、楽しく活動することができたことです。これらのことが、子どもたちが学び方をしっかりと身に付け、自ら関わることでいろいろな気付きをするおもしろさを味わう活動を可能にしたと考えられます。

しかしながら、まだ、他の子の気付きに関心が少ない子どもや、指導者の関わりなしで自分の思いや気付きを明確にすることが難しい子どもがいます。これらの課題については今後も研究を積み重ねることにより、改善していきたいと考えています。

支部の歴史をふりかえって

創立時からの先達へ
～大恩に報い小恩を忘れず～

苫小牧支部長　松　谷　淑
（昭和47年卒　苫小牧市立北星小学校長）

夕陽会苫小牧支部の歴史について元支部長の高橋進氏（昭二十二年卒）より拝聴したことをまとめてみました。

○往時を偲ぶ時

ホテルの大広間に響く大太鼓、夕陽会の華やかなハッピ姿の若きリーダーの、「寮歌ッ」の号令が、～「巴湾の水の精を汲みー」～。「ソーレッ」のかけ声。

先輩も後輩も一つに結ばれた同窓生の大円陣が揺れ動く～。これは夕陽会苫小牧支部の大宴会を締めくくるクライマックスシーンの光景である。

当支部の草創期と比べ、隔世の感ひとしおのものと覚え、昔を知る者は、何時もこの光景に感動し、感無量を味わうひと時である。～あの青春の頃、ラッパで起居し、同じ釜の飯を食った「全寮制」の厳しさ、楽しさが脳裏を去来するから不思議である。

当支部は毎年、二月は「勇退者の激励会と新年会」（勇退者へは、寮歌を刻んだ立派な盾を贈呈する）。五月は「総会と歓迎会」が定着し、継続されている。

○支部の胎動期

S二十年頃、会員が少なく、呼びかけもなく、先輩方の同期会や同窓会は、胆振支部への参加等々であった。S二十二年秋、町立苫小牧女学校（現苫西小学校前）教員の角井先生や奈良重太郎先生が音頭をとり、同校に隣接の官舎へ出席したのが最初であった。十数名の参加であったが、案内は全て電話で会則もなかった。先輩の近況報告も、若い者にとっては年齢差が大きく、懐かしい同窓会にはほど遠いものがあった。

若いチョンガー組は、S二十二年卒の私と苫工業高校の村元俊郎兄（S十九年卒、後年画家として道内やメキシコで活躍）の二人だけだった。ある時、村元兄が「もっと賑やかな同窓会にしようや」と亀谷ガッタ舎監先生（目が悪い）を真似て、門限まで入寮しなかった生徒（私）を強く叱る場面～「キミー売国奴メガー」、（口癖だった）の「寸劇」を演じて、先輩各位の爆笑と喝采を浴びたものだった。

時には、2区会館（現名取酒店前）の会合で、村元兄と私が焼酎をヤカンで温め、銚子に移しながら、先輩各位へ運んだもので、宴会後酩酊して動けなくなった先輩を自宅へ連れて行くのも若手二人の役目であった。先輩を肩に背負い、先輩の自転車を片手で押しながら、駅通りの砂利道をフラつきながら公宅（現千秋医院）まで送るのは、容易なことではなかった。しかし、こうした偶然の縁が、その後の絆を強くして、色々なご指導を受けたことも印象深い。

年一回の不定期な集まりも、大場徳三郎校長（苫東小二代目、S二十二年五月～S二十三年九月、病死）や藤盛良春校長（苫西小十五代目、S三十六年四月～三十八年六月、事故死）の頃から、本格的な支部固めの機運が出たが、お二人とも短い期間だったことで、なかなか支部活動はレールに乗らずに終わってしまった。

○支部の草創期

こうした不安定な状況も、S四十年頃から、市内の校長先生を支部長に立て、役員や簡単な会則を作りながら徐々に支部の体制を整えていった。田中吉雄校長（苫東小五代目、S四十三年四月～S四十六年）、奥山俊光校長（苫東小六代目、S四十六年四月～S五十一年）の頃には待望の組織も確立し、夕陽会の会員数も年々増加していった。この頃、対馬豊三教育委員（岩倉組KKの役員、教育委員長で活躍）が顧問に加わり、支部の活動も活発になり、山崎勝男市議会議員（苫東小教員、王子製紙会社総務課）が立候補したことで、組織的な支援体制ができ「夕陽会苫小牧支部」の組織や活動も活発になっていった。

○支部の黄金時代

S五十年は、現在の活動を作った黄金時代と言えよう。渡邊正支部長（S十九年卒指導主事、教育部長、市内小・中学校長、教育委員長）と加藤常吉リーダー（S二十年卒、上川地区から当市へ、苫光洋中学校長、現在も画家として活躍）の両輪が会を一層盛り上げた。その頃、加藤リーダーの檄と壇上狭しと拍手のリードで動き回る雄姿は、夕陽会本部の宴会でも有名な存在であった。大太鼓は無かったが巧妙なリードは全員の拍手を一つにしたものであった。

この体制は、そのまま今日に継続されている。この間、仲間からは多くの指導主事や主幹が誕生、春秋の叙勲者も出て市の祝賀会には多くの同窓生が出席し、会を盛り上げ「相互協力」の感動的場面を演じている。

近年、母校が生まれ変わることに、一抹の寂しさを感じさせるが、「夕陽会は不滅なり」を堅持して行きたいものである。それには、「函館からの教師が欲しい」との評判を起こすほか道はない。今こそ夕陽の「学び、行動する」（現場実践）を目標に汗を流さなければならないと思うのである。

（※以上がお話し戴いた内容です。）

☆お礼にかえて

本部からの原稿の依頼を手にした時、どなたに伺うべきか迷いました。とりわけ支部の創設時については、本人の異動のからみもあり、卒業年次だけでは簡単にはその様子は分かりません。ここに時系列として概要を知り得たことは誠に幸運でありました。そして、お話の一言一言に刻まれた多くの諸先輩の、夕陽に寄せる熱い思いに胸を打たれました。

今、我が母校の様子が変わり、今後の組織活動に新たな課題を投げかけていますが、私たちは先達が築いてくれた輝かしい歴史と伝統、その労苦に報いるためにも、今いる多くの現職会員と結束を固め、英知を結集して新たな伝統を「創造し、行動する夕陽」を築かねばなりません。最後になりましたが、改めて高橋進先輩（昨年秋に叙勲）に心より感謝とお礼を申し上げます。

支部だより

石狩支部便り

石狩支部長　髙田　久
（昭和48年卒　千歳市立信濃小学校長）

今年度、石狩支部長を仰せつかりました。今年度で定年退職ということで、力のない私ですが持ち上げてくれたのかなと思います。支部役員の校長先生や教頭先生の力を借りながら、支部の活動が一層スムーズに行われるように努めていきたいと考えております。

石狩支部は、会員数が約百七十名（教職以外も含めて）で、校長は十名（内、女性校長一名）、教頭は九名となっておりますが、管理職数では、石狩管内の五校の同窓会の中では一番少ない状況になっております。中堅教員の中には、教頭職を志す人が少なく、その発掘が大きな課題となっております。また、会費の納入率が年々下がってきており、同窓意識の低下も危惧しているところです。

今年度は、前記の課題を少しでも解決できるように、「声をかけ合い、仲間の輪を広げよう」を支部の活動テーマに設定し、会員の活動への参加率を上げること、会費の納入率を上げることを重点にして、より仲間の輪が広がり、そしてより信頼される夕陽石狩になるように活動を工夫していきたいと考えています。

今年度行った「気軽に参加できる」そして「仲間を広げる」ことができる活動をひとつ紹介します。

○　**ふれ合いトーク2009**

昨年度は、元ＳＴＶアナウンサーの片山雅子さん（同窓）をお招きして、アナウンサーになったきっかけや入社試験、テレビ番組のこと等々のお話をしていただきました。中堅の先生方もたくさん集まり、教育現場でも使えるようなお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

二回目の今年度は、会員の中で、海外での勤務経験をして帰国したばかりの二人の先生に、その体験談を話していただきました。一人は、永洞純一先生（現石狩市立花川小）です。パラグアイにあるアスンシオン日本人学校での体験を、そして二人目は渡辺一平先生（現恵庭市立若草小）。ジャイカ青年協力隊のドミニカ共和国での体験をそれぞれ話していただき、海外での教育事情等々を学ぶことができました。その後は、千歳市内で懇親会も開催し、さらに交流を深めることができました。

今年度の残り後半には、各支会（市町村）での懇親会の開催、他職種の同窓への声かけ等々の取り組みを行い、同窓意識の低下の歯止めをしていけたらと考えています。支部の様々な課題を解決していくためには、最低限行っていかなければならないことはありますが、重点をかけたり前年度踏襲ではなく、活動を行うに当たって様々な工夫をしていくことが大切なことだと考えています。

宗谷支部便り

宗谷支部長　山口　潤
（昭和48年卒　稚内市立潮見小学校長）

赴任する時に、広大な宗谷の地に様々な思いを抱きながら、夜汽車の車窓からわずかに見える人家の灯を見ていたことを今でもしっかり覚えています。

宗谷管内九市町村にまたがる広域管内の宗谷支部は、一時は百名を越える大所帯の時期もありましたが、およそ十年前には八十名程の同窓会員が所属しておりました。

しかし、その後も少子化や学校の統廃合により減少を続けており、平成十四年度は七十名あまりとなり、そして、平成二十一年度は顧問・ＯＢ会員を含めて五十名足らずとなっています。

また、現職会員も管理職は五名の校長と一名の教頭となっており、二名の校長が今年度で退職となってしまい、会員の減少とともに、支部の役員体制と運営に大きな課題が生じています。

しかし、会員は減少はしても、何とか会員相互の絆を深めながら宗谷の教育の充実を目指して、「会員相互の連携と親睦」「会員一人一人の夕陽会に対する意識の高まりと日常研修の活発化」を掲げて取り組みを進め、同窓会意識の喚起に努めてきております。

今後も会員の減少が続き、また、教員の新採用者が少なくなっている現在、会員相互はもとより、特に若手会員の同窓会意識を高めていくことが最大の課題となっております。

過年度に、函館師範、第二師範をご卒業後、最北の地宗谷で学校教育に精進された夕陽会宗谷支部会員の大先輩方のご活躍の足跡をまとめた「宗谷を翔けた夕陽健児」という冊子を在札の大先輩から送っていただきました。

自然条件が厳しく地域的に大変広いへき地複式校が多い宗谷の地での教育の変遷、そして、その中での夕陽スピリットを発揮し、「朔北の地宗谷こそ、わが新任地なり」と宗谷の各学校で活躍されたことが伝わってくる内容でした。

宗谷管内は若い先生が非常に多く中堅層が極端に少ないという現実があります。また、さらに、宗谷はへき地複式校が多いため、若い先生方の赴任地はそのような小規模校が多くなりがちです。

会員減少に歯止めがかからない状況ですが、大先輩方の足跡を伝えながら、会員相互の交流促進と連絡を大切にして活動を継続していき、「創造し行動する夕陽会」の意義をしっかりとおさえ、今後の活動への活力を生み出していきたいものと考えています。

社会に活躍する同窓

縁の下の力持ち

東京書籍㈱　尾形博
（平成12年卒）

大学を卒業しておよそ十年。三十歳を過ぎた私に、人生の転機が訪れました。不況の煽りで勤めていた会社の業績が悪化し、退職せざるを得なくなった私。そんな折、新たに就職した東京書籍での仕事を通じ、久しく遠ざかっていた同窓の皆様と再会することができたのです。

教育現場で奮闘している皆様と話をさせていただくと、教育一途であった大学時代が蘇ります。卒業後に教師の道へ進まなかった私ではありますが、教育に対する想いは持ち続けておりました。それ故、改めて教育現場の近くで働けるようになったことに、大きな喜びを感じます。また、こんな私を温かく迎えてくださった夕陽会の皆様には、大変感謝すると同時に、このご縁を大切にしたいと考えております。

私の勤務する東京書籍は、教科書を作っている会社です。したがって、先生が授業をしやすく、子どもが理解しやすい教科書を作ることが使命です。しかし学校とは、授業を行うだけの場ではありません。学校現場には多種多様の問題が発生し、その最前線にいらっしゃる先生たちは、毎日、様々な困難に立ち向かっています。私は、そんな先生たちの負担を少しでも和らげられるよう、支援をする役目を担っています。

結局のところ、私の仕事とは、先生たちにとって、「縁の下の力持ち」になることなのだと思います。授業活動はもちろんですが、それだけに留まらず、教育活動のあらゆる場面で、先生の心強い味方となれる存在を、私は目指しています。

そのためにはまず、多くの先生とお会いし、しっかりと話を聞くことが重要です。現場の状況がわからなければ、適切な支援は行えません。どんな教科書が使いやすいのか、教室での子どもの様子はどうなのか、授業の妨げになっているものはないか、聞けば聞くほど、先生たちのご苦労を伺い知ることとなります。そんな中で、私にできる最適な支援策を、日々思案しています。

時に、先生たちとの会話は、教育から離れた話題に及ぶこともあります。ただ、そういった会話の中にも、教科書作りや現場の問題解決に関わるヒントが潜んでいることがあります。この仕事においては、会話のひとつひとつが、重要なツールとなるのです。

そこで私は、先生たちが安心して話ができるような雰囲気作りを心掛けています。特に、「話し過ぎた」とか「話し足りない」と感じさせぬよう、話すことと聞くこととのバランスに気を付けています。心地良い会話は、心地良い関係を築く第一歩なのです。

「一期一会」という言葉がありますが、夕陽会の方々と触れ合う機会を得られたことは、私の人生において、貴重な出来事です。共に成長し、共に語らえる仲間という財産は、何にも変えがたい、かけがえのない宝物です。これは、年齢を重ねるほど、強く感じられます。今後とも、夕陽会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力をお願い申し上げます。

美術館に流れる時間

釧路市立美術館　瀬戸厚志
（平成7年卒）

大学を卒業し、早十五年。いつの間にか三十台も後半に入り、政治家や社長に同年代を見かけるようになりました。オヤジだとおもっていた四十歳ももうすぐそこ。いつの時代も、過ぎてしまった時間は一瞬だということを、いまさらながらに感じます。

私はこの十五年のうち、十四年を幸運にも学芸員としてすごすことができました。美術館で働く「学芸員」は、北海道全体でも総数は一〇〇人に満たず、知る人ぞ知る、謎多き職業です。その仕事を一言で言えば「美術館にくる、作品とお客様のお世話係」とでもいえるでしょうか。

カタログで作品を調べたり、作家にインタビューしたり、それを基に文章を書いたりするデスクワークから、トラックに乗って作品を運び、トンカチを持って壁に設置する力仕事。広告のコピーを考えたり、クイズのシートを作ったりと、作品を見てもらうためにあらゆる知恵を絞る、さながら作品に仕える「執事」です。

さて、展覧会が開くと、お客さんがやってきます。そこでは、解説したり、講座を開いたりと、お客様と直接ふれあう機会が多くなります。接客業としての学芸員の一面です。

お客様からは感謝、感激の言葉を聞くこともあれば、叱責、苦情も当然あります。理不尽な叱責には怒り、自分の甘さが招いた失敗には悲しみ。悲喜こもごもは、客商売の醍醐味といえるでしょう。

この「人とのふれあい」が、私の仕事を支え、育ててくれています。人の言葉が背中を押してくれたり、私の固定観念を覆して、新しい発見の手がかりを見つけてくれたりと、次へ向う手助けをしてくれるのです。

私は最初の四年を鹿追町立神田日勝記念館で、また現在までの十年を釧路市立美術館で過ごしました。美術館と一口に言っても、それぞれ仕事や方向性は大きく違います。

現在の私の美術館は「親子で楽しめる美術館」を目指しています。静かに非日常を楽しむ美術館から、もっと気軽に、笑い声と笑顔が耐えない美術館へ脱皮するには何が必要か？毎日が試行錯誤の連続です。

ここ最近では、努力のかいあって、小学生だけで美術館に遊びに来たり、幼稚園の小さな子どもとお母さんが手をつないで来たりと、自分が子どものころには想いもしなかった光景が、目の前に少しずつ形を表しています。

これから、きっと時代の流れの中で、美術館も様々に形を変えていくことになるでしょう。

また、数年後に振り返ったとき、過ぎてしまった一瞬の中に、楽しくステキな時間があふれていることを期待し、これからの時間を過ごしていこうと考えています。

会報が語る貴重な歴史（第25号）

昭和十七年六月三日發行　同　窓　會　報　第二十五號　（一）

同窓會報

第二十五號

御挨拶

會長　樋渡龍雄

再任挨拶

幹事長　吉村庄治

卷頭言

師範教育制度改革問題

新會員を迎へる

支部長協力會議開催期延期

母校を語ふ

次号で、夕陽会報も二〇〇号の発行を迎えることとなりました。

同窓会報として、第一号が、一九二四年（大正十三年）十二月三十日に発行され、以来、夕陽会が九十周年を迎え、同窓の絆である、夕陽会報も、幾多の歴史をくぐってきました。

会報には、同窓の思いが綴られており、どの会報も大変貴重なものです。

今回、その中から、会報二十五号を取り上げました。

この会報は、昭和十七年六月三日に発行された四ページのもので、現在、一部しか残っていません。

第二次世界大戦の最中、発行されたもので、紙質はあまり良くなく、他の会報より痛みが激しく変色しており、このままでは読むことが不可能になると考え、復刻いたしました。

戦時下の時局厳しい中、同窓の活動の様子を読み取ることができ、貴重なものであると思います。

また、会報は、この次の号である第二十六号から第五十九号まで、夕陽記念館にも保存されておりません。戦中、戦後の激動の中の会報発行の厳しさを感じております。

なお、会報第二十五号については、印刷会社で復刻した原版を情宣部で持っておりますので、希望の方は、情宣部に連絡いただければ差し上げることができます。

前納会費納入会員名簿追加分

安藤信男　函館　昭46
井端祐子　函館　昭54
須藤康雄　函館　昭47
武田　誠　七飯　昭46
手坂世志雄　函館　昭46
伴　明　函館　昭48
森武由美子　函館　昭46
高橋久夫　北斗　昭46
清橋義人　小樽　昭49

（平成二十一年十一月三十日現在）

夕陽会員訃報

田中　市郎氏　昭10　20・1・5　木戸　兵三氏　昭20　21・8・25
函館市昭和1の11の27　駒子氏　函館市高丘町24の18　ミツヱ氏

加須屋　惇氏　昭29　21・4・12　奥寺　恒夫氏　昭17　21・8・27
函館市杉並町8の4　弥生氏　三沢市中央町3の10の24　大氏

川村　淵氏　昭16　21・6・3　氏家　和夫氏　昭13　21・9・1
札幌市厚別区もみじ台南1の10の5　小樽市長橋4の12の26　トミエ氏

近藤　昭氏　昭29　21・6・9　千葉　俊宣氏　昭35　21・10・18
函館市川原町9の19　函館市富岡町1の56の18　知江氏

高島　温厚氏　昭20　21・6・12　山田　定雄氏　昭28　21・10・24
北見市高栄西町5の7の7　カヨ子氏　札幌市北区新川西4条3の4の7　国子氏

岩川　準氏　昭25　21・6・30　福島　豊氏　昭19　21・10・27
函館市入舟町14の10　栄子氏　木古内町字本町337

菅野　毅氏　昭26　21・7・29　白土　正紀氏　昭37　21・10・30
函館市銭亀町210の199　久美子氏　伊達市乾町18の3　紀恵氏

小松　裕幸氏　昭37　21・8・24　和田　勉氏　昭33　21・11・1
函館市北美原2の12の12　大三氏　伊達市鹿島町59　邦子氏

山下　和子氏　昭19　21・8・22　北林　秀男氏　昭29　21・10・30
函館市湯川町1の6の8の403　沼崎光子氏　函館市本町17の2の602

（平成二十一年十一月三十日現在）

前納会費制度ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈
　その他不定期発行の記念品等の贈呈
②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（隔年発行）の本人への贈呈
③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用

前納会費の額は、卒業年次により異なっております。次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生　五千円
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者　一万円
③同じく昭和五十一年以降の退職者　二万円
④平成元年以降の退職者　三万円

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報一九九号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、『金森赤レンガ倉庫群』を取り上げてみました。毎年、「はこだてクリスマスファンタジー」が開催されます。今年は函館開港百五十周年記念もあり、十一月中旬から十二月二十五日までで、今年も倉庫の壁面にサンタクロースの人形が登場しており、函館港に面した壁面に十二体が設置されています。

大きさは約一メートル五十センチ、人目に付かないように帽子を深くかぶって顔を伏せていますが、白い袋を担いで壁をはい上がる様子は、何ともほのぼのとしたものを感じさせます。

◆夕陽会報は次号で二〇〇号になります。会報などの資料を整理しておりますが、会報二六から五九号で発行されたものが、夕陽記念館にもありません。

もし、これらの会報や資料など、お持ちの方がいらしゃいましたら、大変貴重な資料になりますので、夕陽会事務局の方にご一報いただければ幸です。

（情宣部長　伊勢　昭記　昭49卒）

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。
041-0806　函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号（0138）46―2235
夕陽会専用（0138）34―5520
FAX番号（0138）47―7376

題字　文化勲章受章者　金子賢蔵（鷗亭）氏（昭4卒）